

Weekly Bulletin 2016-2017



RI会長
ジョンF.ジャーム



人類に
奉仕する
ロータリー

静岡東ロータリークラブ

会長／大村幸代 幹事／細川俊彦

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
大村幸代

第 2597 回例会

平成 28 年 2 月 2 日 天候 晴

《司 会》 細川 俊彦 君

《合 唱》 君が代
奉仕の理想

《BGM》 サントリーホール ニューイヤークンサート
ヨハネス・リフ：一月一日
ホール 25 周年記念ワルツ

《ゲスト》 清和海運株式会社
代表取締役 宮崎 総一郎 様

《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日

2月 2日 長谷川 泰 君
2月 12日 山下 勝央 君

結婚記念日

2月 10日 佐野 哲一 君

《会長挨拶要旨》

「職業奉仕セミナーに参加」



大村 幸代 会長

先週の 29 日の日曜日、グランシップで行なわれた「職業奉仕セミナー」に参加してきました。講師は佐賀南RCの駒井英基様で「職業奉仕についてもう一度考えてみよう」というテーマでした。1月の雑誌の紹介で望月会員が取り

上げていました『「職業奉仕」はロータリーの根幹か』という記事に対峙するような内容で、大変興味深くお話しを伺ってきました。1月号の本田博己さんの記事は「職業奉仕」はロータリーの根幹ではなく、五大奉仕の一つとしてクラブ活動の枠組みの中にあるという趣旨だと思います。それに対して 29 日の駒井さんのご講演は『「職業奉仕」はロータリーの根幹であり、自らの職業を通して地域社会に奉仕する場であるべき。そ

してその根幹から伸びた枝や花が社会奉仕や国際奉仕青少年奉仕、ロータリー財団だと考える。そうでなければ他の奉仕団体とかわらないではないか。』ということをおっしゃっていました。勉強不足の私には難しい話で、正確な内容をお伝えできていないかもしれませんが、このセミナーはDVDに収録され後日クラブに送ってくださるそうですから、とりあえずエレクトの高田さんにお渡ししたいと思います。本田博己さんは「日本のロータリー100周年委員会 ビジョン策定特別委員会委員長」で、今年度の当地区の地区大会にRI代理としてご講演をされています。また職業奉仕セミナーの講師の駒井英基さんは第 2740 地区のDGEです。今後この「ロータリーにおける職業奉仕とは何か」というテーマは様々な場面で議論等がなされていくのだと思います。

《ロータリーの友 2月号紹介》

広報・雑誌グループ

河野 雅一 君

今月は曹洞宗長徳寺住職の酒井大岳さんが書かれた記事を紹介しします。『与えて生きる喜び』と題して投稿されていますが、この方は金子みずぶさんに傾倒されており書籍を出されている方です。その酒井住職が生きることに大切な事を四つ説いています。一つ目は「善きことをなす」。この紹介の中にアイヌ民族のことが書かれています。それはアイヌ民族では5歳になるまでに教えることが1つあるそうです。詳しくは誌面をお読みください。二つ目に「果報を求めない」それは見返りを求めないということです。三つ目に「共に喜ぶ」です。それは同じ仕事を皆で力を合わせて進め出来上がった時の喜びは皆の喜びとなると云うものです。これは私の職が建設業であり、現在進めております草薙駅前の常葉大学の工事でも皆で一生懸命に良いモノをつくらうと頑張っていますので共感出来ます。最後の四つ目は「語るよりも歩む」です。口は達者だが自分では出来ないという人がいるが、そうではなく言わず語らず実践するということです。このような立派な人になりたいと思いつつ、また反省をしながら読ませて頂きました。

《来賓卓話》

「折戸湾再開発について」

清和海運株式会社 代表取締役 宮崎 総一郎 様



本日は折戸湾再開発と題してお話しをさせていただきます。折戸湾の面積は弓形の沿岸部だけでも2.4kmと広大な湾であるにも関わらず内水面は何にも使われておらず、沿岸部に極僅かな数のプレジャーボートが係留されているに留まり有効な活用がされていません。

過去、江戸時代に遡れば牡蠣や海苔の養殖もされるほどきれいな海だったのです。また、高度成長期には貯木場としても使われ、海に400本ほどの杭が打たれて木材が流れないように対策をした訳ですが、今はそれも使われていません。先ほど話をしたとおり、ヨットハーバーもあります。しかし200隻の係留能力がありますが、実際には130隻ほどしか係留されていません。これはヨットのオーナーがどんどん高齢化していて、若い方がこのような遊び方をしなくなったことも影響しています。このような場所を再開発すべきと様々なプランが出されている訳ですが、その例をいくつか紹介します。

平成16年の国土交通省清水港湾案計画では人々に安心安全を提供する、大規模地震への対策なども検討されました。

平成20年には静岡市議が「清水港ビジョン具現化検討会」を立ち上げ、メンバーに国交省、静岡県、静岡市が入りながら、民間メンバーゼロの策定は外部委託の丸投げ状態でした。平成27年には民間22社による「魅力ある清水を創る会」が静岡県知事と静岡市長に対する提言書が提出された。

このように検討・提案がされているのに何故、折戸湾の開発はうまくいかないのかということ平成28年には国土交通省清水港湾事務所が示しました。それは「投資や人を惹きつける魅力的な計画案がしめされていない」「防災上の懸念」「合意形成、推進体制の不足、本気度の不足」が挙げられました。

経済同友会では平成24年に「地域活性の処方箋」という書籍を発行したわけですが、その中でこれからの地域の発展策を作成するには仕掛けが必要。発展のプランは行政だけで描けるものではなく、市民・民間企業の参加がなければ実現可能なプランではない。構想の初期段階から世界公募などの仕組みが必要。このようなことを世に出した訳ですが5年経った今でも中々前に進んでいません。平成27年は経済同友会の事業として「地域の再発見と夢を語る委員会」で折戸湾と浅間神社を対象に委員会を開催してきました。その中で結論として「地域の活性化は提言だけでは進まない」ということで経緯の検証や関係者のヒアリングを行い、民として何をすべきかに的を絞った議論を行いました。

その委員会の結論として静岡経済同友会が200万円を拠出、清水港木材産業組合、清水港の3セクが3社

が各100万円を出して推進組織を立ち上げることになりました。メンバーは国、県、市、民間からの構成とし、事務局は清水銀行の子会社に依頼した。またスピーディに取り纏める為に報告書の期限は1年とした。

開発プランの基本方針としては地権者の意向を尊重する、議論は出来る限りブレインストーミングで進める、マスコミへは事前に知らせない。というものでした。その後実際に地権者との面談や100名を超す方々からの自由な意見をヒアリングしました。その中には高級ホテル、リゾート、アウトレット、複合商業施設、飲食業、カジノ、健康村などのアイデアがありました。また、昔のように完全に戻すことは出来ないとしても砂浜や干潟などに戻して欲しいとの意見もありました。

基本コンセプトとしては自然への回帰、富士山と折戸湾の眺望を活かすなどです。このプランを進める為には沿岸部を埋め立てしてプロムナードを造ることが必要となります。また現在の欠点である飲食施設、自家用車、バスの大規模駐車場を設けるプランとなります。これからは官と民の投資計画、実際に着手する計画などが課題となります。私案では東京オリンピックの終了時点位かなと思っております。今後も地権者との協議など課題はありますが進めていきたいと思っております。

《スマイル報告》

高石 優子 君 1月は1度も出席出来ていなくて申し訳ありませんでした。今年も宜しくお願いします。

宮崎 貴久 君 おかげさまで今週末にインター取り付け道路沿いの旧静岡三菱本社跡地にアウディ静岡を移転・新築オープン致します。昨年10月にオープンしました国吉田のアウディ静岡東に続いて2店舗目のアウディ店となります。明日は15日からプレオープンイベントを開催しますので是非、お越し頂きたくスマイルします。

由利 浩志 君 宮崎社長、大変お忙しい中、卓話にお越し下さいましてありがとうございます。感謝申し上げます。

川口 尚宜 君 本日は貴重なお話しを聞かせて頂きありがとうございます。清和海運宮崎社長様に感謝してスマイル致します。

神野 一成 君 本日の講話をお願いした宮崎社長ありがとうございます。大変参考になりました。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
2/2	52(49)	42	7	-	-	-
1/26	54(50)	42	8	-	-	-
1/19	53(49)	40	9	6	3	93.88%

(会報作成：宮崎 貴久)